

学力調査結果等を踏まえた内容別・観点別の分析 6年生 様式2 小34練馬区立石神井小学校

教科	1学期前半内容別指導の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別・学力調査観点別のクロスの分析
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・物語、説明文の読解力は優れている。 ・漢字の定着に個人差があるものの、全体的には優れている。 ・作文指導では、書く機会を多く与えたため、経験や考えを文章に入れて書ける児童が増えてきた。 ・言語では、文や文章の中で既習の漢字を使うことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く能力では、パンフレットを作成した。目的や意図に応じて自分の考えを効果的に書くことができた。 ・読む能力では、登場人物の心情や場面についての描写など叙述を味わいながら読むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査では、活用する力が区の平均を上回った。また、書く能力も区の平均を5%以上上回った。引き続き、体験したことや自分の考えを文章に表す指導を続けていく必要がある。 ・話す・聞く能力が、他の領域について比べるとポイントが低くなっている。聞いたことをメモに取ったりグループでの話し合いの時間を多くとったりすることで、話す・聞く能力を高めた。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・倍数と約数では、公約数の求め方でつまずきが多くみられた。 ・分数の足し算引き算では、計算の仕方は理解できているが、通分や約分でのミスが目立った。 ・単位量あたりの大きさでは、異種の二量の割合の意味を十分に理解できていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な考え方では、既習事項を使って新しい計算の仕方を考えることができる児童とそうでない児童の差が大きい。 ・表現・処理では、特に約分での計算ミスが目立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査では、活用する力、算数への関心・意欲・態度、数学的な考え方が区の平均を上回った。既習事項を生かして、多様な考え方を出すことができるように指導を続けていく必要がある。 ・表現する力では、区の平均は上回ってはいるが、計画的に計算問題の復習の時間をとり、個の実態に応じた指導で理解の定着をはかる。考えたことをノートに書いたり友達にわかりやすく説明する活動を多く取り入れる。

その他の学力調査の結果分析
 ・学力調査では、活用する力が区の平均を上回った。昨年度の本校の研究テーマである「言語活動(かかわりあい、学びあい)」の成果であると考えられる。自分の考えを図や言葉で表したり、友達に発表したりすることでより理解を深める活動を今後も増やす必要がある。